

王城寺原演習場における米軍実弾射撃移転訓練の訓練見学会を開催

令和4年12月2日（金）、王城寺原演習場において、米軍実弾射撃移転訓練の訓練見学会が実施されました。見学会には、宮城県及び演習場が所在する大和町、大衡村、色麻町の関係者や報道関係者、約30名が参加しました。

見学会では、指揮官であるスティーブン・J・ボアダ中佐（第3海兵師団第12海兵連隊第3大隊長）から「日本の仲間と共に訓練することにより、米海兵隊と陸上自衛隊の組織力を強化し、我々の能力を向上させ、インド太平洋地域における平和の礎である日米同盟をより強固にする一助となる。我々も安全面を重視しているので、安全を第一に考えて訓練を実施する」等の説明がありました。

当初予定されていた155ミリりゅう弾砲の実弾射撃の見学は、残念ながら天候の影響により中止となってしまいましたが、参加者は射撃指揮所や155ミリりゅう弾砲の機能や携わる隊員の役割等の説明に耳を傾けていました。

射撃訓練は、11月30日から12月9日までの10日間のうち、8日間実施します。



155ミリりゅう弾砲



参加者に説明するボアダ中佐 ①



参加者に説明するボアダ中佐 ②



マスコミからの質問に答えるボアダ中佐